

# 虹の海の童話集

いいんだぞうよりでっかいの

ぶん ウミニール・プラントン  
え プアマリナ 2000年1月

「 めりかちやんは、パパにあこひみました。」

「 めよ「つづ」つせんつて、でつかいの。」

「 そりやあ、でつかしゃ。」

「 パパは、めりかちやんのことを みもしないで いこました。でも、めよ「つづ  
パパが いいところに つれていくてくれるのです。  
めりかちやんのパパは、いつもいつも いやがしくて ビヨウジモ にわくつ  
びもせんぜん おやすみになつません。  
だから、めよ「はママも あわから 二二二二二二二二二二二二。」

「 ねえねえ、パパよりも大きこの。」

「 ああ、そりやあ パパより ずいぶん大きい。」

「 ねえ、じやあれ、田中さんといの犬よつ。」

「 ああ、あのでつかい犬ね。わひともひと めよ「つづ」のまつが なんばこも  
でつかいぞ。」

「 パパとママと めりかちやん。でんしゃにのつて、バスにのつて、それから二  
じまで てくてく てくてく。」

川もあつたし、いけもあつたし、つすせんむ、たぬせんむ、せつせんむこ  
ました。

二のあたりまでくれば、水をよじる人もいなし、くつをよじる、じぢう  
しゃもない。なにより、いつもみなれたビルディングなんて、もしにこも みえな  
くて、あるいはつぱの木が、たくさん せえています。

「 わたし、ちょっと つかれちゃつた。」

「 ょりかちやんが めよ「つづ」と、ママが やわしく いこました。」

「 じゃあ、そらかわ おべととつ たべましょ「うね。」

「 これは、おひたまがポカポカあたる めよ「のい」 ましょでした。」

「 ハハが ひとつも ありません。」

「 せらはあおくて、二二二二でこつても せここのくもなんて みあたりませ  
ん。」

「 はい、パパ。おにぎりつづくね。」

パパは、よりかちやんがおしゃるおしゃれでかわいいし、かえりへるの  
は、やすやすねむってしまつてから。

たまのおやすみには、グーグーねているだけ、じんなふうに一人そろつて  
「じはんをたべるのは、ほんとうにわせじぶつのことです。

それなの、パパあんまりいれしゃばになくな。

「ねえねえ、きよひつかひせりしや、どれぐらこでつかーの。」

おべんとうがおわいて、おたおむねじめたとき、よりかちやんはおも  
ました。

「みんなのが、ほんとうのきよひつかひをしたこと、わかるわけなこと。」

もうこつて、パパはどんどんおもこつておもす。

よりかちやんは、すっかりかなしくなつてしまいました。

わー。パパのばか。

しづめいへるとおえのきよひがどんどんへりになつてきました。  
「ねえ、ママ。」わこよー。」

よりかちやんは、むづつかりはんべんです。

「だいじょひがよ。すぐによかるくなるわ。」

「でも、おほかがでたら、じつするのよー。」

ヒヒと、なめくじになつてしまつた。

「しづめがなにわね。じゃあ、パパにへりつこなれこ。」  
やつれわれで、よりかちやんはパパのズボンにひつしでしがみつれまし  
た。

パパは、よりかちやんの手をしつかつとじゅわってここました。

「ああ、よりか。このトンネルをぬければ、すぐだからな。」

そのじえは、ひとつてもやせしくてよりかちやんは、せつきパパのばかつて  
いたことを、すっかりわすれてしまつた。

「ねえ、パパのおへて、あつたかいね。」

「それが。わつわつ、じはんたべたからな。」

わづかわづかうりで、なにかしゃべつていないとふんでしかたあ  
りません。なんだか、とおくのせいでかびくわこじぶつえんみたいなに  
おこがしています。

ダンプカーが たくさんいるのかな。それとも、ビルの なげいへでしょ  
うか。ものすごく大きなおどが、きこえます。

でもパパとママが いるから ゼつたい だいじょうぶ。

「そうだ。パパ きょうづりゅうをみて いいんだぞー よりも でっかいのか  
なー。」

「えへへ。いいんだぞーって、なんだ。」

なんだか、びっくりしたようですね。

「このあいだ、この子ね、えんやくで、ビルのえんに いったのよ。」

ママが、ここから いきました。

「そうよ。わたし、ビルのえんに いったの。おみみが大きくて、おはなん  
て このんなに このんなに ながいのよ。」

よりかちゃんは、大きく大きく、りょうせつの手をひらげてみました。

「なーんだ。それってイングゼウのこのとか。あはははは。」

きょうづりゅうはじめてパパが わらいました。

「いいかい、よりか。きょうづりゅうはね、イングゼウなんて ひとくちで たべ

---

ちやうぐらい でつかいんだぞー。」

せつかくパパが わらつたのに、よりかちゃんは、かおをまっかっかに して  
います。

イングゼウの なまえを、まちがえたのが はずかしかったのです。  
でも、まつぐらなトンネルに あかるいひかりが セシコンできただとき、より  
かちゃんは とてもいいものをみました。

パパが、二口二口わらつているのです。

そりなんだ。パパも きょうづりゅうが大すきなんだ。

それは、とてもうれしいことでした。

「ほら、トンネルの でぐちだぞ。」

よりかちゃんは、あまりの まぶしさに、めをつけてしまいました。

「このは、あかるくて、あたたかくて、すくすくひろいところでした。  
こんなに、まぶしい おひさまをみたのは、はじめてのことです。

大きな大きな はっぱの、たかいたかい木が、たくさん たくさん はえてい  
ます。

「ねえ、パパ。あれこれ、お山があるでしょ。」

「今までに、みたこともないよつな、あるくて でっかいお山でした。  
「あれど、きょうつゅうさんだつたら  
どつちが大きいの。」

「よりかちゃんが やうこつたとき、  
お山がズシンと うごきました。  
おや、まあ。それは、ただのお山では ありました。

くろくて、まんまるのものが ふた  
つ ついていて、それが、よりかちゃんのことを、じつと みつめています。  
とてもやれっこ、おめめでした。

「ほら。インデウソウ、でっかいだる。」  
パパが いいました。



## 虹の海の童話集

いいんだぞうよりでっかいの

ご意見は、Web 版「虹の海の童話集」  
<http://www.mars.dti.ne.jp/gec/fairy>  
または E-Mail  
gec@mars.dti.ne.jp  
まで